

グリーン・トピックス

北海道立林業試験場

No.17

長期化が予測されるヒラタハバチ類の被害



写真-1 ニホンアカズヒラタハバチの幼虫

写真-2 カラマツのヒラタハバチNO.1の幼虫
(巣に糞がほとんど付かない)

カラマツの葉を食害するヒラタハバチ類が4～5年前から、石狩・胆振の東部や弟子屈町で大発生を続けています。終息の気配はなく被害の長期化が予測されています。

カラマツは食葉性害虫の被害に強い樹種で、食害により葉を失っても再び葉を開き生き延びます。しかし、何年も被害を受けると徐々に衰弱し枯死の危険がでてきます。

発生しているヒラタハバチ類はニホンアカズヒラタハバチ(写真-1)、カラマツのヒラタハバチNO.1(写真-2)とNO.2(写真-3)の3種類です。いずれも北海道ではこれまでの分布記録がなく最近、本州から侵入したものと考えられます。

大発生の長期化は北海道に有効な天敵がないために起きています。このため本州から有効な天敵を導入してヒラタハバチ類を防除する研究を進めています。

(昆虫科)

写真-3 カラマツのヒラタハバチNO.2の幼虫の巣
(巣に糞が付く；幼虫はNO.1によく似る)

溪流魚の隠れ場

水辺の植物



オオバセンキュウ



スゲの一種



ツルヨシの根をつつくタカハヤ

イワナやヤマメなどの溪流魚は、鳥などの外敵が来ると河岸のえぐれや、倒木、水辺の植物の陰などに隠れます。

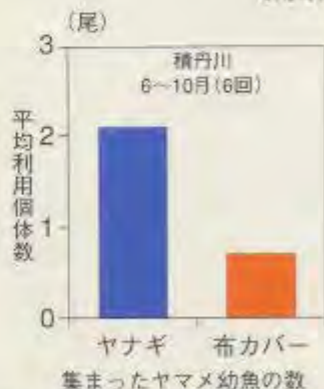
葉付きのヤナギ枝と、灰色の布切れを実験的に川の中に置いたところ、ヤナギの方が3倍も多くヤマメが集まりました。これはヤナギの枝が流れに変化をつけたり、餌となる水生昆虫の住みかにもなるなど、魚に好ましい環境をつくるためと思われます。

水辺の植物によるこのような隠れ場は、樹木ではヤナギ、草本ではツルヨシ、スゲ類、セリ科植物などによりつくることができます。

(流域保全科)



ヤナギ枝下のヤマメ幼魚

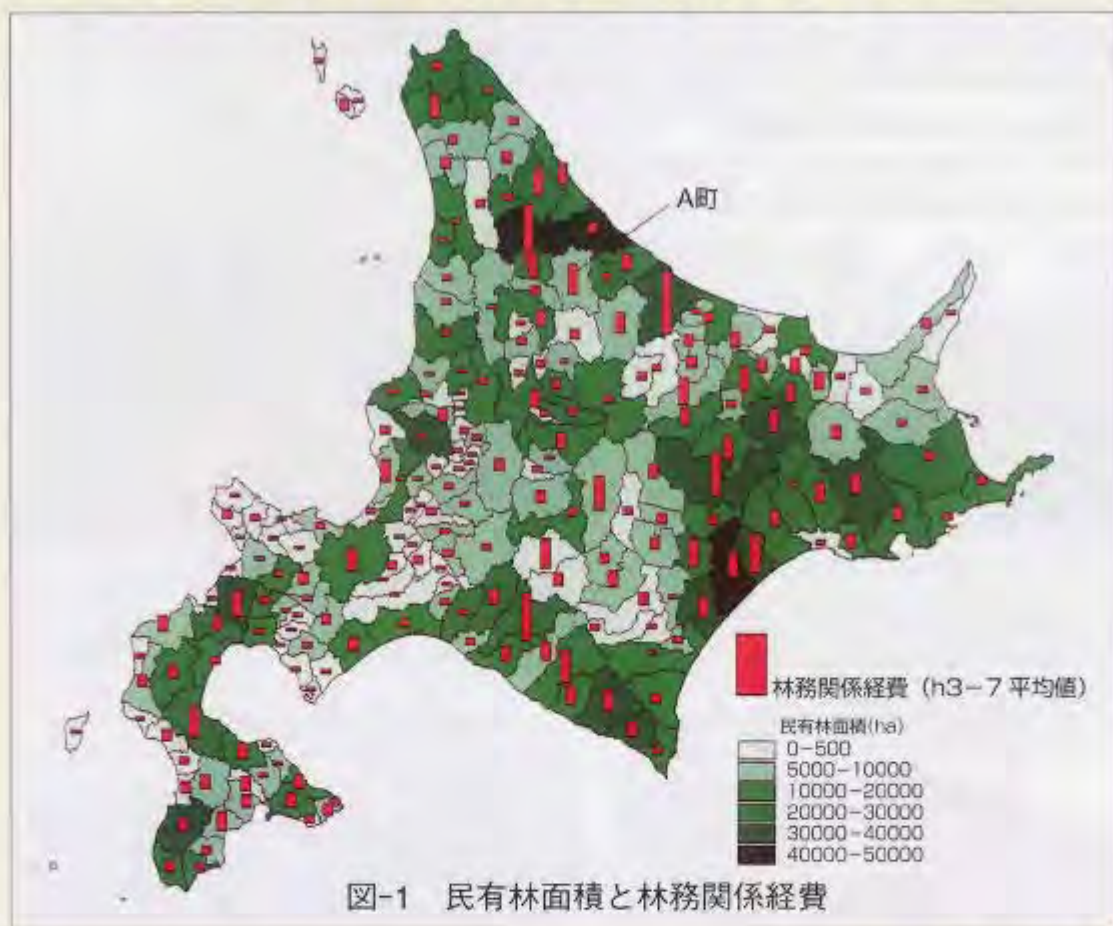


ツルヨシ



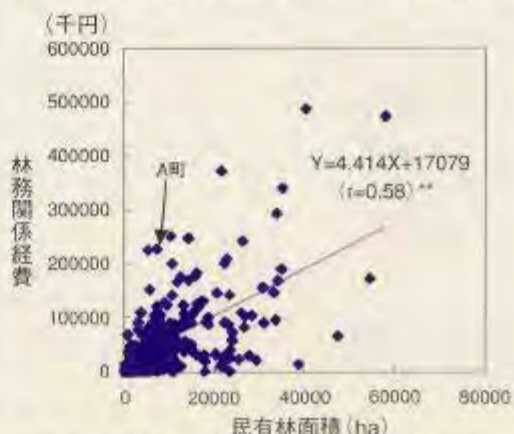
ネコヤナギ

膨大な情報も瞬時に理解できるGIS



GIS（地図情報システム）は地図と調査簿をコンピュータ上で組み合わせ、広域の森林情報を整理整頓してわかりやすく提供する方法です。そこで林業試験場では道有林および一般私有林の地図入力をはじめ、全道レベルのデータベースの整備など実用化に向けた研究を進めています。

一例を示すと、図-1は市町村アンケートなどから市町村別の私有林面積と平成3～7年度に投資された林務関係経費の平均値との関連を示したものです。両者には図-2のような相関関係がありますが、例えばA町などの市町村は私有林面積が少ないにもかかわらず多額な資金が投入されていることが分かります。従来、これらの情報は表だけで示されていましたが、視覚に訴えるGISの特徴を活かすことにより格段に受け手の理解が深まります。道庁各課を始め、様々な機関が持つ情報を総合的に扱うことにより、政策支援や地域住民との合意形成のツールとして活用が期待できます。



西興部駐在所・音威子府駐在所

林業試験場道北支場に所属するこれらの駐在所では、道有林に設置されている森林施業・生態研究林を利用して、以下の地域課題に取り組んでいます。

西興部駐在所（平成4年4月設置）

- ◆マツタケの安定生産を目指した発生環境の解明と改善、そして発生促進効果の持続方法。
- ◆優良な広葉樹材生産のための二次林における樹幹腐朽原因と樹種別の抵抗性の解明と応用。



西興部駐在所庁舎



マツタケ発生試験地

音威子府駐在所（平成7年4月設置）

- ◆寒冷豪雪、旺盛なチシマザサとの競合、蛇紋岩土壌など森林の造成が困難な立地における森林再生方法。
- ◆トドマツ枝枯れ病の被害跡地の現状分類による今後の森林の取扱い方法。



音威子府駐在所庁舎



蛇紋岩地での森林再生試験地



グリーンダイヤルは
あなたのダイヤルです。

「山づくり」や「緑を育てる」質問・相談をお受けしています。
お気軽に電話してください。すばやく、詳細な情報をお届けします。



連絡先

林業試験場 本 場 TEL01266-3-4164 FAX01266-3-4166
道南支場 TEL0138-47-1024 FAX0138-47-1024
道東支場 TEL01566-4-5434 FAX01566-4-5434
道北支場 TEL01656-7-2164 FAX01656-7-2164
ホームページ <http://www.hfri.bibai.hokkaido.jp/>

発行年月 平成9年9月
発 行 北海道立林業試験場
〒079-01 美唄市光珠内町東山